

【所属名：総務部企画定住課】

【会議名：第3回糸魚川市総合計画審議会】

## 会 議 録

作成日 令和3年7月5日

日	令和3年7月2日(金)	時間	9:30~11:30	場所	市役所 2階会議室
件名	・審議事項 (1)第3次総合計画のイメージについて (2)第3次総合計画の構成について (3)第3次総合計画の体系について (4)分科会の設置について				
出席者	【委員出席者 19人】 池田七菜、齋藤伸一、渡邊秀幸、榎木園薫、青木和人、松本香織、榊厚志 猪又千恵子、仲林智志、小野雅子、木嶋貢、保坂史子、龍見和弦、磯貝誠 稲葉淳一、鈴木秀城、山岸喜治、田中昌美、水嶋聡 【委員欠席者 8人】 小林修、丸山理恵、山本習子、松木美佐子、猪又史博、渡辺康太、猪又直登 斉藤直文 【事務局出席者 6人】 五十嵐総務部長 企画定住課（渡邊課長、中村課長補佐、内山係長、松澤主査、縄主査）				
	傍聴者定員		— 人	傍聴者数	— 人

### 会議要旨

<p><b>1 開会 (9:30)</b> 4月に交代した委員2名を紹介。</p> <p><b>2 会長あいさつ</b> 当市では幸い新型コロナウイルスの感染者数も少なく、また、ワクチン接種も始まったことから、だんだん良い方向に進んでいるように感じている。 一方、東京都では感染者数の増加も見られ、マスコミの報道では、飲食店での飲酒を認める意見もある一方、オリンピックは人が集まるので危険であるという意見もあり、どちらが正しいのか明確にするのは難しい状況である。ただ、この審議会においては、糸魚川市の将来を方向付ける計画について審議しているので、粛々と皆さんのご意見をお聞きしながら、委員会としての方向性を成果として出していきたい。 前回の委員会の際に、バックキャストという話が出た。将来のありたい姿を思い描いて、そこから今何をするのか考える方法であるが、この会は審議会であり、市から出された原案に対して、我々がそれぞれの立場で意見を言う必要がある。 要素としては、バックキャストの考え方も大いにあるとは思いますが、会としてまとまりを持って、諮問に対して意見をまとめていきたい。</p>
---

### 3 審議事項

- ・以降、総合計画審議会条例第6条第1項の規定に従い、鈴木会長に議長をお願いし進行。

#### (1) 第3次総合計画イメージについて

- ・企画定住課内山係長から、資料に基づき説明。

#### 【質疑・意見】

(委員)

- ・市長の選挙公約に基づく重点項目とのことだが、市長公約は何を見ればわかるのか。

(事務局)

- ・参考として市長の選挙公報を配付。

(委員)

- ・資料No.1の施策の大綱「移住定住・地域づくり・人権」と資料No.3の対応する分野で表記が異なる。どちらが正しいのか。

(事務局)

- ・資料No.3が誤りなので、「市民活動」を「移住定住」に訂正していただきたい。

(会長)

- ・重点課題として、「人口減少対策」と「人口減少社会に対応したまちづくり」の二つを掲げている。「人口減少対策」は人口を増やそう、「人口減少社会に対応したまちづくり」は人口が減っても対応できる社会を作ろうということで、異なる内容ということでは理解できるが、人口に関する課題として一つにまとめても良いのではないか。また、一つにまとめることで、下の重点項目を端的に表す課題を挙げることはできないか。

(事務局)

- ・地方においての最大の課題は人口問題であり、すべての施策が人口問題に関連してくる。例えば健康づくりについても、健康寿命の延伸により、人口の維持を図る。また、人口が減ることによって起こる地域経済の縮小に対する対策、ふるさと学習により郷土愛を高めることで、地元に着住する人を増やすといった取組が人口問題とセットで重要となってくる。

(委員)

- ・人口減少問題は重要な課題と認識しているが、例えば「住み続けたいまちづくり」のようなポジティブな課題設定はどうか。

住み続けるためのまちの体力作りや、魅力的な雇用、学習環境への対応も必要となってくる。減っていくことへの対応と、住み続けたいまちづくりの対応を掲げることで、前向きに「ここで住み続けたい」という意志表示ができるのではないか。

(会長)

- ・人口減少対策の重要性は認識しているが、あえて同じようなものを二つ併記しなくてもよいのではないか。二つを一つにして、前向きな課題で、重点項目の取組を網羅するようなものがあっても良い。

(事務局)

- ・人が増えるということが考えにくい中であって、「人口減少社会に対応したまちづくり」には、ここに住んでいてよかったと思える、住んでいる人たちが満足して、安心して住み続けられるまちづくりを進めるという思いが込められている。

問題を解決するための取組が課題であり、委員からも前向きなご意見をいただいたので、ぜひ検討したい。

## (2) 第3次総合計画の構成について

- ・企画定住課縄主査から、資料に基づき説明。

### 【質疑・意見】

(委員)

- ・都市のランキングには、「住みたいまち」と「住み続けたいまち」の二つがあるようだが、「住みたいまち」には、自治体ごとの比較のイメージがある。

今回、計画にSDGsの理念を取り入れるとのことだが、SDGsは比較ではなく、私達がそれぞれの形で目標達成を目指すという取組であり、「住み続けたい」を前面に出すことでSDGsにつながる計画になると考える。

説明の中に「安全・安心なまちづくり」というフレーズがあったが、計画の中でもその点について触れられるのか。

(事務局)

- ・計画策定の趣旨に「安全・安心な暮らしを築いていくため」という文言を織り込んでいる。また、SDGsは持続可能な開発目標であり、まちの方針としても「持続可能なまちづくり」と持続可能性をうたっており、「住み続けたい」につながるものと考えている。

(委員)

- ・「ライフスタイルの多様化、共生社会の推進」という項目で、8050問題に触れているが、当市での状況は把握しているか。

(事務局)

- ・当市での実数等は把握していないが、現状としてあるという認識を持っている。また、若年層の引きこもりもあると聞いている。引きこもり対策として、市では若者サポートセンターを立ち上げ、対応をしている。

(委員)

- ・環境問題に関することで、前回計画策定時にも小水力発電という話があった。今回の計画でも具体的に示されるのか。

(事務局)

- ・河川を始めとした豊富な水は当地域特有の資源であり、計画の中に織り込み、活用していきたいと考えている。

## (3) 第3次総合計画の体系について

- ・企画定住課縄主査から、資料に基づき説明。

### 【質疑・意見】

(委員)

- ・新型コロナウイルス感染症に関する対応はどこに分類されるのか。仮にこれでコロナウイルスが終息したとしても、新型インフルエンザや新しい感染症の流行も心配される。その点は計画のどこにどのように記載されるのか。

(事務局)

- ・新たな感染症にこの地域でどう対応していくのかということになるが、一つの項目で完結できるのではなく、医療体制もあるし、防災・危機管理という観点、また私たちができる予防ということもあるので、それぞれ対応するところで取組を記載する。

(委員)

- ・国では、団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、地域包括ケアシステムをしっか

り構築していこうという話がある。糸魚川市では、この地域包括ケアシステムにどのように取り組んでいくのか、またどのように充実させていくのか、計画での位置付けを確認したい。  
(事務局)

・「高齢者福祉の充実」に「生活支援サービスの充実」という項目があり、そこで地域包括ケアシステムの構築、第2層協議体の取組の推進を位置付ける。また、介護人材の確保も課題となっており、合わせて取り組んでいくことが、2025年問題につながる取組となる。

(委員)

・第2層協議体がなかなか機能していない現状があるので、ぜひ取組を進めてもらいたい。また、一人暮らしの高齢者も増えているため、そのような方も安心して暮らしていけるような計画にしてもらいたい。

(委員)

・以前、地域包括支援センターから、木浦地区の取組発表会に呼んでもらった。その時に感じたのは、バリアフリーなど高齢者に優しい施策は、子育て世代にも優しい施策であるということである。「地域福祉の充実」に、若い世代を巻き込んでいける施策を検討してもらいたい。

(委員)

・木浦地区公民館がこの冬の大雪で使えなくなってしまった。体操などの行事が一切できない状況となっている。お年寄りも体操を楽しみにしているし、踊りの教室ができなくなって困っている。もう夏であり、市の対応が遅い。計画を立てるのもいいが、このような現状に対する対策を早めに行ってもらいたい。

(事務局)

・公民館の件については承知しているので、担当課にも確認する。

(委員)

・この後の進め方にも関係してくるが、今後分科会で更に細かいところを確認する中で、また体系についても意見はできるのか。計画の体系だけ見せられても、どこまで意見をすればよいかわからない。

(事務局)

・今後、分科会で具体的な計画の素案を確認していただく予定としている。その段階で、新たな視点が必要であれば、体系の見直しも可能である。最終的には、体系を含めて計画を全体会で確認していただく予定としている。

(委員)

・教育の中に「質の高い学校教育の推進」とあり、今後より具体的な取組が計画に書かれてくると思う。計画に取組が記載されていても、実際学校によっては、できたりできなかったり、対応が異なっている。計画に書くからには、等しく統一した対応を取ってもらいたい。

(事務局)

・学校によるばらつきは、学校の規模等の事情もあると思うが、計画でうたったものであれば、全校統一した対応がとれるようにしていきたい。学校は、市の方針に基づいて取り組んでいる。基本的な学習の部分は各校共通であり、地域の実情に応じて取り組む部分で各校の違いがあるのではないかと。

教育環境、学校設備を含めて統一していく必要があるが、ソフトの部分については、学校ごとの実情があるので、それに応じて対応している。具体的な話ができれば教えてもらいたい。

(委員)

・教育内容に学校による大きな差異はない。地域色が出ているのが糸魚川の学校の良さであると思う。

(会長)

・審議会では、現在計画策定に関わっているが、今後計画ができた段階で、その進行管理を

進めて行く必要がある。その点について、事務局の考えは。

(事務局)

・計画を作って終わりではなく、実行に移して、取組の成果について評価を行っていく。

(委員)

・市長公約の看護師養成学校の設立、公営塾の開設、国公立大・有名私大への進学支援といった項目は、この計画の体系のどこに位置付けられるのか。

また、現状として大学連携を行っているとのことだが、体系のどこに当てはまるのか。

(事務局)

・市長公約については、今後実現に向けた検討を進めて行く。公約は、現在、本市が抱えている課題だと認識しており、例えば、健康福祉分野に「医療従事者の確保」という項目があり、そこに「看護師の確保」が入っている。その手法の一つとして、看護学校の誘致がある。公営塾は、高校の魅力化やキャリア教育に位置付けられる。

大学との連携協定は、分野ごとに協定を提携している。上教大とは、教育に関連してタブレットを活用した授業の進め方、新潟大学とはジオパーク活動について連携している。それぞれの分野で連携をしている。

(委員)

・高校の魅力化に関連して情報提供。7/27に糸魚川白嶺高校と糸魚川ジオパーク協議会と連携協定を結び、地域人材の育成に向けた取組を強化する。

(委員)

・市長公約と総合計画の位置付けを明確にしてもらいたい。公約が計画にどう反映されるのか。

(事務局)

・総合計画は市の最上位計画であり、選挙で選ばれた市長の公約は反映させなければいけないと考えている。今回、公約の部分を重点項目として掲げ、具体的な事業を位置付け、公約に対する指針としたい。

ただし、公約について、一度にすべて実現することは困難であるため、何らかの方向性を計画の中に示したいと考えている。

(会長)

・民意で選ばれた市長の公約を実現しようとするのは、行政として当然の姿勢であるし、付属機関である審議会もその姿勢で進めるべきである。

(委員)

・「活力ある産業の振興」の中の「新たな産業の創出」に循環型経済、環境に配慮しながら新しい素材を開発、産業につなげられる視点を取り入れてほしい。

農業や漁業においても、リサイクルを前提とした素材の利用を推し進めているところがある。また、糸魚川の森林資源の活用についても検討してもらいたい。

(事務局)

・循環型社会はこれからの重要なテーマになると思うので、どのように取り入れるか検討する。

(委員)

・農林水産業の分野で、「担い手の育成と経営の安定」という項目があるが、担い手の確保は過去からずっと言われている。新たな担い手を確保するためには、住居の問題もある。空き家が増えてきているので、そういったものを活用して、担い手を増やせないか。

(会長)

・先ほど委員からもあった、持続可能、リサイクルについては章立てが無いので、逆に新たに起こすこともできるだろうし、また、この色を出すことで、新しいメッセージを発信できるのではないか。

(委員)

・「自主自立の市民活動の推進」に、「まちづくりの協働促進」とある。行政だけではできない部分もあると思うので、いろいろな団体がそれを補完できるよう、行政で困っていることをまちづくり団体に出してもらうことで、協働が進むと考える。また、各団体の活動が活発化するよう、各団体での取組の情報発信を進めてもらいたい。

(委員)

・一人一人の表記について、「一人ひとり」という表記も見るが、用字の明確な基準はあるのか。

(事務局)

・一人は常用漢字なので漢字表記としたが、最終的な表記方法については、他の計画や国などの上位計画との整合性を図りたいと考えている。

(委員)

・「冬期市民生活の確保」について、今年の大雪で交通に支障が出た。今後も同様のことが起きるかもしれないので、除雪体制について明記してもらいたい。

(委員)

・「鳥獣被害の防止」について、以前蜂の巣で困ったことがある。その点についても対応を明記してもらいたい。

(事務局)

・生活環境の保全という観点からも検討したい。

(会長)

・公共インフラの中に通信の分野はあるのか。

(事務局)

・通信インフラは民間主導で進んでくると考えているが、どうしても首都圏中心となり、地方へ波及してくるには時間がかかると思うので、何らかの促進策について検討をしていきたい。

(委員)

・「時代に即した情報の発信」について、「時代」と書くと違和感があるので、文言を修正した方がよい。

(委員)

・情報発信は、内容か、手法か。

(事務局)

・内容も手法も見直すということで考えている。時代に即したという表記については、事務局で検討してみる。

(委員)

・情報化に関連して高齢者に一人1台タブレット端末を配付できないか。中高生がボランティアで使い方を教える取組をしている自治体もある。また、安否確認やケーブルテレビで行っている情報発信もタブレット端末を活用してできるのではないか。インターネットで情報発信することで、市民以外の人も見ることができる。

(委員)

・高齢者には、スマホやタブレットの操作に抵抗感を持つ人もいるので、それ以外の方法も検討してもらいたい。

(会長)

・体系にはそれぞれ担当課が明記されているが、担当がない新たな課題や、この計画期間内に生じるかもしれない新しい課題について、計画にあげるべきものがないか各委員からも確認してもらいたい。

#### (4) 分科会の設置について

- ・企画定住課縄主査から、資料に基づき説明。

#### 【質疑・意見】

(委員)

- ・会議の日程について、できれば午後に開催してもらいたい。

(事務局)

- ・他の委員の都合もあることから、正副会長と協議し、日程を決めさせていただきたい。

#### 4 その他

(委員)

- ・本日の会議録は市のホームページで公開されるのか。また、欠席委員に会議録の送付はあるのか。

(事務局)

- ・会議録は市ホームページで後日公開するとともに、欠席委員には送付する。

(会長)

- ・先ほど分科会は、7月下旬から8月に開催すると説明があった。多少タイトな日程になるかと思うがご協力願いたい。

#### 5 閉会

(副会長)

長時間にわたりご審議いただき、ありがとうございました。

本日の審議会では、計画の体系ということで、抽象的な議論となったことから、どこまで意見を言ったらいいか悩まれたと思うが、多くの貴重な意見をいただいた。

今後の分科会では、具体的な計画案も出てくると思うので、より細かな議論ができるものと思う。

タイトな日程になるかと思うが、答申に向けてより良いものにしていきたいので、ご協力願いたい。

以上